

計量経済学史・比較経済思想

池尾 愛子 教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

Recent History を専門とし、20 世紀における経済学の国際化、通貨や国際金融政策の展開について、日本の経済学者達の国際貢献に焦点をおいて研究を進め、国際会議や国際セミナーで発表してきました。その研究成果が、*A History of Economic Science in Japan: Internationalization of Economics in the Twentieth Century* (Routledge, 2014 年; ペーパーバック 2016 年) です。

現在の研究テーマは次の通りです。(1) 東アジアの金融政策・経済政策のグローバルな視野から研究。例えば、1997 年の東アジア通貨危機と 2008 年の金融危機への対応を比較して、国際機関と各国政府の役割を考察する、日本と ASEAN の経済関係史を研究する等。(2) 天野為之(明治期の忘れられていた経済学者、ジャーナリスト、教育者)を掘り起こす研究。(3) 計量経済学や経験的研究、金融・経済政策の歴史的展開。(4) 日本のエネルギー政策思想史。いずれの研究においても、グローバル化の推進要因として技術進歩や技術移転に注目しています。

海外の研究者達から、私は「数理経済学の歴史」を研究してきたとみなされています。その理由は、19 世紀半ばまで日本の経済研究の伝統と西洋の経済研究の伝統が交わることがなかったからです。それゆえ、明治期の経済学者 天野為之(偶然にも早稲田大学商学部の創設者)や、近世の二宮尊徳、石田梅岩、貝原益軒にも注目するほか、近年の東アジアの経済政策史にも関心を持つようになりました。これまでの出版書籍は、上記のほか、『日本の経済学: 20 世紀における経済学の国際化』(名古屋大学出版会、2004 年)、『20 世紀の経済学者ネットワーク』(有斐閣、1994 年)、『赤松要』(日本経済評論社、2008 年)、編著『日本の経済学と経済学者』(日本経済評論社、1999 年)、英語版 *Japanese Economics and Economists since 1945* (Routledge, 2000 年)、共編著 *A History of Economic Theory* (Routledge, 2009 年)、編集 *Economic Development in Twentieth Century East Asia* (Routledge, 1997 年) などです。Routledge から出た本は4冊ともペーパーバックが出ています。

2. 指導方針

私の研究指導の希望者には、できる限り標準的な経済学(マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学、国際経済学の少なくとも一つ)の歴史的展開を押さえた上で、自分の研究テーマを選んでほしいと思っています。日本や日本が関係するテーマ、日本の国際経済関係史の研究も大丈夫です。

3. 学生に対する要望・その他

留学経験のない方の場合、留学生向けの専門授業や語学の集中授業をとることを要望します。